

眼科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の 患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省文部科学省の「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開し患者さんが拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関して、研究計画や関係する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 ぶどう膜炎におけるレニン・アンジオテンシン系の発現解析

【研究機関】 北海道大学病院眼科

【研究責任者】 神田 敦宏（医学研究科眼科学分野・特任講師）

【研究の目的】 ぶどう膜炎は、眼の中の虹彩、毛様体、脈絡膜からなる、非常に血管の多い組織「ぶどう膜」に炎症が起こる病気の総称です。「ぶどう膜」だけではなく、脈絡膜に隣接する網膜や、眼の外側の壁となっている強膜に生じる炎症も含まれます。ベーチェット病、サルコイドーシス、原田病などで発症する炎症であることはわかっています。炎症を鎮めるためのステロイド薬が有効で、内服や局所療法としては点眼を始め眼の回りの組織に注射する場合があります。しかし、その詳細な病態発症の原因や機序は不明で、ステロイド薬の急激な減量や中止によって炎症を再燃することもあり、患者さんの負担などを考慮すると、ぶどう膜炎に対する治療薬の開発は重要です。これまでの研究でレニン・アンジオテンシン系が眼内の炎症の発症に関与することが複数の実験モデルや臨床研究で示されております。そこで、本臨床研究ではこれまでに外科的に切除した硝子体液におけるレニン・アンジオテンシン系関連分子や炎症性サイトカインの発現の解析を行い、ぶどう膜炎の病態形成への関与を明らかにすることを目的とします。ぶどう膜炎におけるレニン・アンジオテンシン系の役割を明らかにすることで、これまでとは異なった視点からの新たな治療法の開発に結び付く可能性があります。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

ベーチェット病、サルコイドーシス、原田病、黄斑円孔、網膜前膜の患者さんで、平成22年1月1日から平27年4月30日の間に研究用の硝子体検体の切除・保管に同意された方

●利用する検体およびカルテ情報

検体：手術時に切除された硝子体検体
(以前に研究用としての保管に同意いただいた分)
カルテ情報：年齢、性別、疾患名、治療内容

【個人情報の取り扱い】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に検体を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

【問い合わせ先】

北海道札幌市北14条西5丁目
北海道大学病院 眼科 担当者 神田 敦宏
電話 011-706-5944 FAX 011-706-5948 (眼科医局)